

校番	31	ホームルーム活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式2
----	----	----------	-------	---	------	-------

令和4年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立松永高等学校	校長	宮原敏典	生徒指導主事	西永満彦
-----	------------	----	------	--------	------

取組事例名 『百花繚乱～新たな100年に向けてのあくなき挑戦～（遺芳祭）』

取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協働する力」	1	「多様性に対する適応力」	2	「高い志・使命感」	3

取組のねらい

- ・相互に協力し、創造や発表などの活動をすることで結束力を高め、お互いを認め合う集団をつくる。
- ・すべての生徒が参加し、新しい遺芳祭を創りあげていくことで、母校愛を高める。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『キーワード 生徒の主体性』
<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月23日（月）遺芳祭実行委員会、文化部部長会 ・ 5月25日（水）有志ステージ発表説明会 ・ 各年次の企画等検討会（LHR等で実施） ・ 6月10日（金）5、6限準備 ・ 6月11日（土）遺芳祭実施（保護者のみ公開） <p>遺芳祭の運営については、遺芳祭実行委員会運営ボランティア（ENNOSITA）が生徒会執行部と協力して行う。 目標：新たな100年に向けて伝統を受け継ぎ、結束力を高め、お互いに認め合う集団をつくり、母校愛を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会執行部を中心に文化祭を盛り上げるためのテーマ「百花繚乱」を決定し、全校生徒一丸となって文化祭を成功させるよう取り組ませた。 ・ 企画、運営、準備、後片づけも含めて、生徒が主体的に活動するよう計画した。 ・ 年次企画、文化部企画、有志による企画を実施し、生徒が活躍できる場を多く設定した。 ・ 生徒会執行部および遺芳祭実行委員会運営ボランティアが文化祭を運営し、お互いを認め、協力し合うことで成功体験を得ることができた。 ・ コロナによる制限がある中、保護者に参加してもらい生徒の活躍する姿を見ていただいたことで、生徒の達成感を高めることができた。



取組の成果と課題

学校評価アンケートを7月、12月に実施した。「私は、学校行事（儀式・文化祭・運動会・遠足等）の時に積極的または協力的に取り組んでいる」の設問に対して、肯定的回答が7月の95.4%から12月の96.9%と1.5ポイント上昇した。また、昨年12月に実施したアンケート結果では、92.5%であったことから「積極的・協力的」に取り組むことが出来ていると感じている生徒の割合が増加している。

一方で、3年ぶりの文化祭の開催となったため、経験した生徒が居なかったこと、運営に当たった教員が少なかったこと、また、コロナ感染症の影響によりクラス等での話し合いの形態が難しかったことなどがあり、特別活動の時間をどのように充実させるのかといった課題があった。